

2019年度

人権通信 「一期一会」

発行 石井中学校人権部 第4号 2019. 7.

人権意見発表会

6月19日に人権意見発表会を行いました。この日までに各学年においても、人権意見発表会が行われています。各学年の代表者6名が堂々と自分の意見を発表しました。生徒一人一人が発表を聴いて、その後に感想を書きました。今回はその一部を紹介します。それぞれの思いをつなげていき、今後の生活に生かしていきましょう。



【生徒の感想】

私もよくいやな言葉を言われてイライラすることがあります。でも、逆に相手が嫌だと思うことを言って傷つけていることもあるかもしれないと思いました。これからは、この言葉を言って本当に嫌な思いにならないのか、相手の気持ちになって考えてから話したいなと思いました。

全体の発表を聞いて感じたのは、言葉は怖いということです。人は生活する中で必ず言葉を使います。その言葉は時にはほめ言葉になり、時には人を傷つける言葉にもなります。この人権意見発表会で発表者の人達が口にした言葉は自分をもう一度見直すことにつながる言葉でした。この経験を通して、自分の考えを改めることができ良かったです。

様々なことを考えさせられた。どの発表も素晴らしく、どれも考えさせられるものばかりだった。中には、僕にあてはまることを発表していたものもあり、ドキッとした。僕は、たくさんの人権の勉強をしてきて、もう差別などはしない、僕は差別をしてはいないと思っていたが、自分が気付いていないだけで、差別をしているということに気付かされた。また僕が今ここにいる奇跡、家族がそろって今を過ごせているという奇跡を当たり前のように思っていたが、それは違うということにも気付かされた。

代表者の人達の姿を見て、とても感動し、勇気を出して行動することの大切さを感じました。自分が正しいと思ったことは、差別に負けずに最後まで自分の思いを貫く。このことを忘れずに生きていきたいです。人生はいくら願っても1度しか経験することができません。後悔のない人生にするためにも今日の人権意見発表会で学んだことを忘れずに、人の命も自分の命も大切にできる人になれるよう、努力していきたいと思います。

当たり前の日常の大切さ、家に帰ると家族がいて、今日の出来事を楽しく話せること、学校へ行くと友達とたくさん話したり、遊んだりできること。楽しさは2倍になり、悲しみは半分にできる友達がいること。たくさんの当たり前だけど、素晴らしいことがたくさんあるんだということに気付くことができました。

自分の考えを伝えることで、周囲の意識も変えることができます。逆に発信しなければ何も変わりません。先月、NHK ニュースで紹介されたある記事を紹介します。

原爆キノコ雲のロゴに疑問 日本人留学生の行動に反響 米西部

ワシントン州のリッチランドは、長崎に投下された原子爆弾に使われたプルトニウムが生産された町で、地元の高校のロゴマークにキノコ雲のデザインが使われるなど、住民の多くはその歴史を誇りとしてきました。

福岡県の高校3年生古賀野乃華さんは、こうした背景を知らないまま、交換留学で現地の高校に通うことになりました。

しかし、学校に通う中で、ロゴマークや町の歴史について知り、地元の人たちの原爆に対する考え方を学ぶ中で、自らが原爆についてどう感じているかを伝えたいと思うようになったということです。

そして、学校の先生やホストファミリーの後押しを受けて、5月30日、放送を学ぶ生徒たちが、校内向けに制作する動画に出演し、自分の意見を伝えました。

動画で古賀さんは「リッチランド高校では、キノコ雲のロゴは皆に愛され、いろんな所に掲げられています。自分にとってのキノコ雲は犠牲になった人と今の平和を心に刻むものです。キノコ雲の下にいたのは、兵士ではなく市民でした。罪のない人たちの命を奪うことを誇りに感じるべきでしょうか」と問いかけています。

この勇気ある行動を、地元の新聞などが報じ、ツイッターではロゴマークの是非を巡る議論が起こるなど反響を呼びました。

一人一人の個性を認めると同時に、自分の思いを授業などの機会に、積極的に発信していきましょう。